

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）

事業者名：株式会社 EE21

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
1	職務の理解 6時間	1	職務の理解 6時間	1	職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左 2		(1) 講義のみ
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左 4		(2) 講義及び演習：居宅、施設、通所介護における介護職の役割についてグループ討議を行う。
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左 5.5		通信講習・講義及び演習：介護者（家族）の虐待の原 (1) 因と具体的な虐待の事例を用いて対応方法に関する グループ討議を行う。
	(2) 自立に向けた介護		(2) 同左 3.5		(2) 通信講習のみ
3	介護の基本 6時間	3	介護の基本 6時間	3	介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左 2		講義及び演習：介護職に求められる役割と専門性につ (1) いての講義を行い、演習にてチームケアの重要性 や効果的な役割分担についてグループで討議を行 う。
	(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左 1		(2) 講義のみ
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左 2		(3) 通信講習のみ
	(4) 介護職の安全		(4) 同左 1		(4) 通信講習のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 同左	4	通信講習・講義及び演習:利用者や家族に主な介護サービスの内容をわかりやすく説明できるよう、工夫すべき点についてグループ討議を行う。
(2) 同左	2.5	(2) 通信講習のみ
(3) 同左	2.5	(3) 通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 同左	5	通信講習・講義及び演習:共感、受容、傾聴的態度、気付きなど基本的なコミュニケーションの大切さを説明する。演習にて人間関係を悪化させるコミュニケーションとその理由についてグループ単位で意見をまとめ発表する。
(2) 同左	1	(2) 通信講習のみ
6 老化の理解 6時間		6 老化の理解
(1) 同左	3	(1) 講義及び演習:高齢者に多い疾病と、対応時の留意点についてグループ討議を行う。
(2) 同左	3	(2) 通信講習のみ

別記第1号の2様式

7 認知症の理解		6時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		
(4) 家族への支援		
8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		

7 認知症の理解		6時間	7 認知症の理解
(1) 同左		1	(1) 講義のみ
(2) 同左		2	(2) 通信講習のみ
(3) 同左		1	(3) 通信講習のみ
(4) 同左		2	講義及び演習：介護職として、認知症の利用者の家族へどのようなレスパイトケアを行なえるか具体的にグループで討議する。
8 障害の理解		3時間	8 障害の理解
(1) 同左		0.5	(1) 通信講習のみ
(2) 同左		1	(2) 通信講習のみ
(3) 同左		1.5	(3) 講義及び演習：介護職として、障害者(児)の家族へどのような支援を行えるかグループ討議を行う。

別記第1号の2様式

9	こころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア	基本知識の学習	10~13時間
	(1) 介護の基本的な考え方	
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ	生活支援技術の講義・演習	50~55時間
	(4) 生活と家事	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	

9	こころとからだのしくみと生活支援技術	76時間
ア	基本知識の学習	12時間
	(1) 同左	1
	(2) 同左	5
	(3) 同左	6
イ	生活支援技術の講義・演習	52時間
	(4) 同左	6
	(5) 同左	6
	(6) 同左	7

9	こころとからだのしくみと生活支援技術
ア	基本知識の学習
	(1) 講義のみ
	(2) 通信講習・講義及び演習:老化・障害によるこころとからだの変化についてグループ討議を行う。
	(3) 通信講習・講義
イ	生活支援技術の講義・演習
	通信講習・講義及び演習:意欲低下がみられる利用者の居室内の掃除支援についてグループで討議を行う。
	(5) 通信講習・講義及び演習:家庭内での事故防止についてグループで討議し発表する。
	(6) 講義及び演習:講義にて整容に関する知識と技術の説明を行い、実技演習にて①肢体不自由者のベッド上での寝衣交換(上、下)②肢体不自由者の衣服着脱の介助(座位)(上、下)(弛緩マヒ・拘縮マヒ)をロールプレイング形式で行う。

別記第1号の2様式

(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	12	<p>講義及び演習：講義にて身体機能の状態に応じた移動・移乗に関する説明を行い、片麻痺、失語症、視覚障害者など状況に応じた安全な移動方法についてグループ討議を行い発表する。</p> <p>実技演習では①視覚障害者の歩行介助（白杖）及び②肢体不自由者の歩行介助（T字杖）をロールプレイング形式で行う。さらにベッドメイキングを行った上で③ベッド上での体位変換（手前に寄せる・上方移動・仰臥位から側臥位・仰臥位から端座位）④肢体不自由者の立位介助、座位介助⑤肢体不自由者のベッドから車いすへの移乗（全介助・一部介助）⑥車いすの安全点検⑦車いす移動の介助についてもロールプレイング形式で行う。</p>
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	4	<p>講義及び演習：講義にて食事に関する基礎知識や環境整備、支援の方法を説明し、実技演習にて①肢体不自由者に対する座位での食事介助②視覚障害のある利用者の食事介助③口腔ケアをロールプレイング形式で行う。</p>
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7	<p>講義及び演習：講義にて入浴と清潔保持の基礎知識と用具の活用方法について説明し、実技演習にて①ベッド上での洗髪②肢体不自由者に対する座位での足浴③手浴をロールプレイング形式で行う。</p>
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7	<p>講義及び演習：講義にて排泄の基本知識や環境整備、用具の活用方法を説明し、実技演習にて①肢体不自由者のベッドからポータブルトイレへの介助②ベッド上でのおむつ交換（紙・布）③差し込み便器、尿器での介助をロールプレイング形式で行う。</p>
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	2	<p>講義及び演習：講義にて安眠と環境整備について学び、演習にて褥瘡予防について具体的な方法をグループで討議する。また、実技演習にてベッドメイキングをロールプレイング形式で行う。</p>
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	1	(12) 講義のみ

別記第1号の2様式

(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4 時間
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (130 時間)	

(実習) [※]	
ウ 生活支援技術演習	12時間
(13) 同左	6
(14) 同左	6
10 振り返り	4時間
(1) 同左	3
(2) 同左	1
計 (131 時間)	

(実習) [※]	
ウ 生活支援技術演習	
(13) 講義及び演習: 講義では介護過程の目的・意義・展開を説明し、演習ではグループごとに個別援助計画の作成を行い発表する。	
(14) 講義及び演習: 講義では事例の意義と留意点について説明を行い、演習では事例の提示→こことからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題の発見→改善策の立案という流れをグループで実技演習にて行う。	
10 振り返り	
(1) 講義及び演習: ①研修を通して学んだことについて ②今後継続して学ぶべきことについて ③根拠に基づく介護について(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)の3点をテーマにグループ討議を行い発表する。	
(2) 講義のみ	
計 (131 時間)	

※「9こことからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。